Shokuhin News Neo -2014 February-

神戸大学大学院 農学研究科 生命機能科学専攻 食品・栄養化学研究室
〒657-8501　兵庫県神戸市灘区六甲台町 1－1　電話 078-803-6553（自然科学総合研究棟）5836（農学部 F 棟）
e-mail: shoku@kobe-u.ac.jp　http://www.kobe-u.ac.jp/shokuhin

News

菊正宗酒造 酒蔵見学会

2月18日(火)、加納教授率いる京都大学大学院農学研究科生体機能化学研究室と合同で、菊正宗酒造の酒蔵見学会が行われた。この見学会は加納教授にお誘いいただいたもので、本研究室からは水野雅史教授、橋本堂史准教授の他、10名の学生が、さらに天然有機分子化学研究室から久世雅樹准教授が参加した。見学会の内容は、先月の兵庫県バイオ技術研究会の交流会でも紹介されていた「生もと」について再度勉強した後、実際にその発酵技術を用いた日本酒作りの現場に入らせていただいた。ただ、時期の関係で直接見ることはできたのは一部の工程だったが、酒蔵内に立ち込める芳醇な香りや、発酵中の吟醸香はそこでしか体感できないものであり、その貴重な体験に参加者は高揚していた。
そして、お待ちかねの(?!)日本酒試飲会。会場には日本酒とおつまみが所狭しと並べられ、中には市場に出ないような日本酒もあり、美味しい日本酒片手に菊正宗酒造の方々や加納研のメンバーらとの交流を楽しんだ。
見て、匂って、飲んで、五感をフルに使った、大変勉強になる酒蔵見学会であった。

試飲会での一枚。左から嘉正雄太(B4)、久世准教授(有機)、大浦圭吾(M1)、高間義晴(B4)。久世准教授は自身のお土産に菊正宗の桝を購入されご満悦な様子。

加納先生、菊正宗酒造の方々
どうもありがとうございました!!

修士論文発表会

2月17日(月)に農学研究科生命機能科学専攻応用生命化学講座の修士論文発表会が行われ、本研究室から黄達、大原佳樹、雉子谷百合江の3名が発表を行った。各自、修士課程での研究成果をスライドにまとめ、先生方からの質問に苦悶の表情を浮かべながらも無事に発表を終えた。果たして発表練習の成果はあったのだろうか…??

【修論タイトル】

黄達
タマネギ外皮の黄色ブドウ球菌 *Staphylococcus aureus* に対する抗菌作用に関する研究

大原佳樹
Study on the involvement of actin polymerization in fucoxanthinol-induced apoptosis

雉子谷百合江
The recognition mechanism of the anti-inflammation effects of *Lentinula edodes* derived lentinan

卒業論文発表会

また2月20日(木)には卒業論文発表会が行われ岡早紀子、嘉正雄太、高間義晴、橋本佳奈子、宮本岳、山下紗枝、梁裕司の計7名が発表を行った。これまでで一番の大舞台に緊張しながらも堂々と発表し、中には、先生方から新たなアドバイスをいただけた学生もおり、それぞれ、今後に向けての収穫があったようだ。

発表を行う橋本佳奈子(B4)。やや緊張した面持ち･･･彼女の心境やいかに。

【卒論タイトル】

岡早紀子
冬虫夏草に含まれるTh2ドミナントを改善する因子の探索

嘉正雄太
マコンブ由来フコイダンの定量、およびその抗マラリア効果に関する研究

高間義晴
抗レンチナンモノクローナル抗体のエピトープ解析

橋本佳奈子
βグルカン受容体を介したエンドサイトーシス誘発の情報伝達機構

宮本岳
マウスの栄養状態に応じた味覚嗜好性変化に関する研究

山下紗枝
抗炎症効果を有するルテオリンの吸収促進機構の解明

梁裕司
アリルイソチオシアネート生体内代謝物の機能解析

卒論発表終了後の一枚。左から宮本、高間、岡、橋本、嘉正、梁、山下。肩の荷が下り、全員がほっとした様子。

追いコン！

卒論発表終了後、修了・卒業するM2とB4の追い出しコンパが開催された。来年度からM1として研究室の一員となる外部生やB3も加わり、大勢で卒業生を追い出す楽しいコンパとなった。また、終盤には追い出される学生の挨拶があり、各々研究室生活を振り返り感謝の気持ちを述べた。

左から岡（B4）、梁（B4）、横山友紀（M1）、中村紫乃（B3）。このテーブルではひたすら梁のバストに関する話題で持ちきりだった様子。

編集後記

ニュース係着任早々、前任者の手を煩わせてしまい誠に申し訳ありませんでした。今後は同じようなことがないようにきちんとペースを守って執筆しようと思います。頼りないニュース係ですがどうぞよろしくお願いいたします。

嘉正雄太（B4）

後任者の指導が不十分でした。申し訳ありません。このような事態の再発を防止するため、ニュース係の体制を改めていこうと思います。

滝沢彰良（M1）